



文京区
区立公園利用実態調査

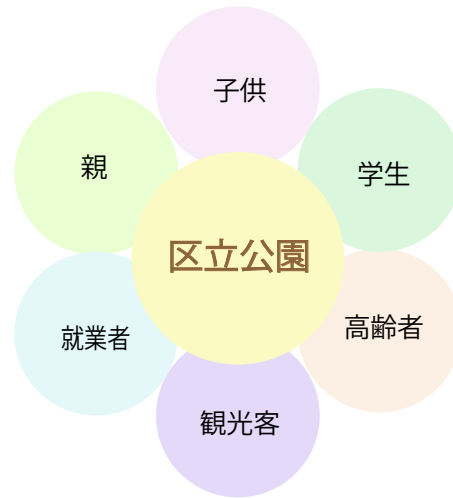
平成30年3月19日

中央大学 理工学部 人間総合理工学科
環境デザイン研究室

はじめに

近年、生物多様性は都市緑地計画を考えるうえで重要視されてきている。しかし、都市において生物多様性を高めるには、生物の生息環境だけでなく人間の利用を考慮した自然共生空間の在り方を追求する必要がある。

そこで本研究では、公園利用者の利用実態を把握することで、現状の公園緑地がどのように利用されているか把握する。そして、自然空間を守りつつも、より様々な人が利用しやすく楽しめる公園へと改善していくために必要な知見を得ることを目的とする。



利用実態調査

○調査方法

調査対象の公園において利用者の行動を観察し、1時間毎に分けて調査表に記録する。

○調査項目

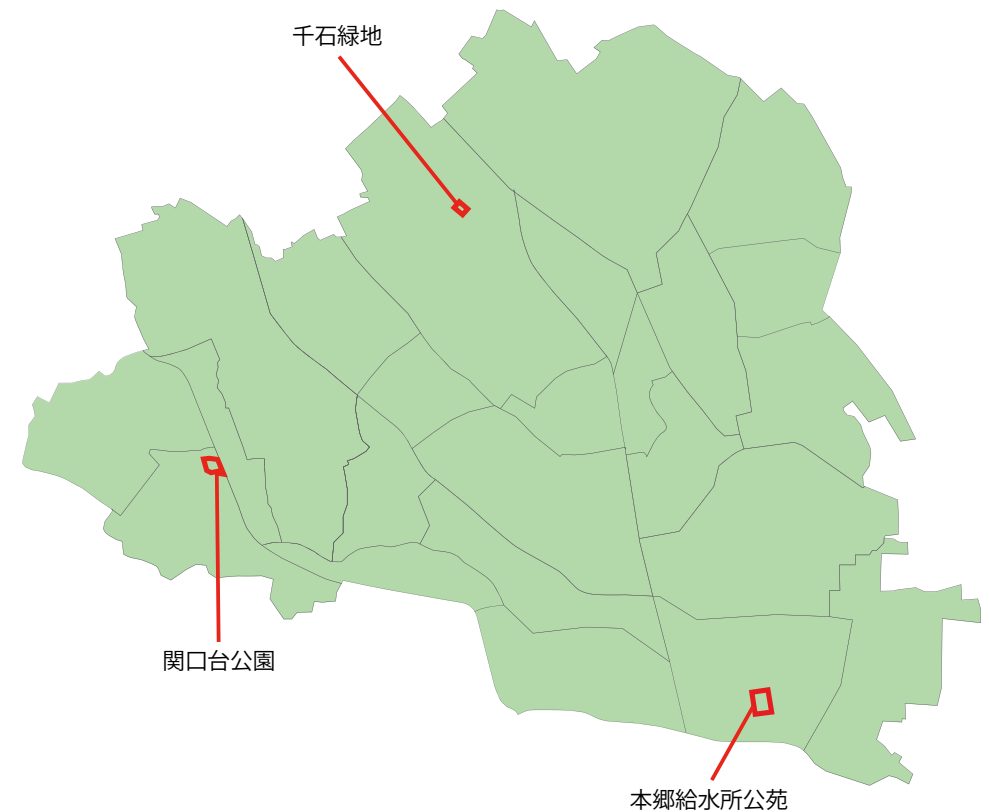
- 1、利用属性 (1) 性別
(2) 年代 : ①幼児層 (小学校低学年以下)、
②学校年齢層 (小学校中学年～高校生)、
③若年層 (大学生および20代)
④壮年・熟年層 (30～50代)
⑤老年層 (60代以上)
(3) 単独・複数 : ①親子、②孫と祖父母、③恋人・夫婦、
④友人・同僚、⑤その他
- 2、利用目的 (※2種類以上の利用が観察された場合には、複数利用として記録)
①散歩 (自然観察)、②休憩、③運動、
④遊戯 : 遊具遊び、自然遊び、その他遊び (かくれんぼ、追いかけて等)
⑤写真撮影、⑥通り抜け、⑦その他

○調査対象地と調査日時

本研究では文京区内の区立公園の内、豊かな自然が広がる「関口台公園」、「本郷給水所公苑」、「千石緑地」の3公園を調査対象とする。調査は平日と休日それぞれ5時間ずつ行った。(千石緑地は利用人数が少ない公園であったため休日のみ調査を行った。)

対象公園	調査日			
	平日	天気	休日	天気
関口台公園	2017年11月27日(月) 11:00～16:00	晴→曇	2017年11月25日(土) 11:00～16:00	晴
本郷給水所公苑	2017年12月4日(月) 11:00～16:00	曇	2017年12月9日(土) 11:00～16:00	晴
千石緑地			2017年12月16日(土) 11:00～16:00	晴

○文京区における調査対象公園の位置



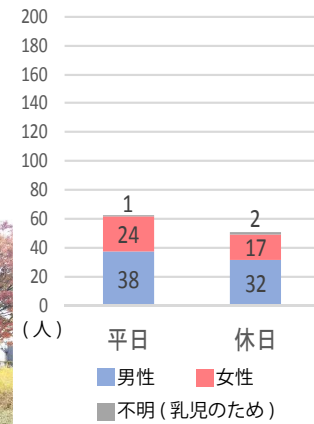
①関口台公園

面積	5225m ²	設置年月	昭和46年～
----	--------------------	------	--------

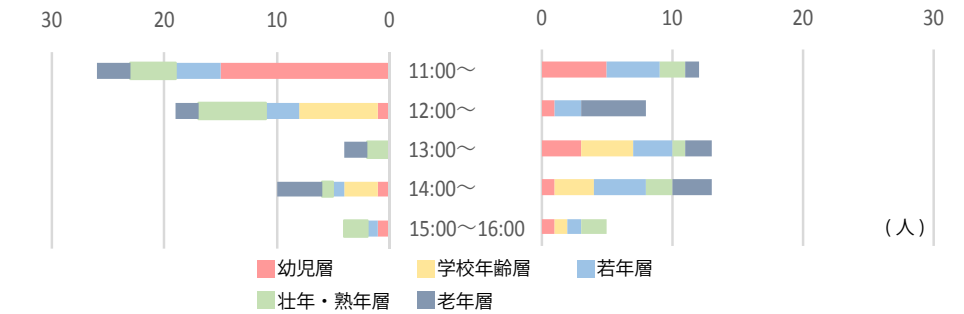
マレーシア大使館の跡地で関口台地の東斜面を利用した公園。池の前面に明るい芝生が広がっている一方で、公園敷地の約半分は斜面緑地であり、山を登っているような感覚で散歩をすることができる。また、モミジだけでなく、様々な種のツツジも植えられており、季節による彩りが綺麗な公園である。



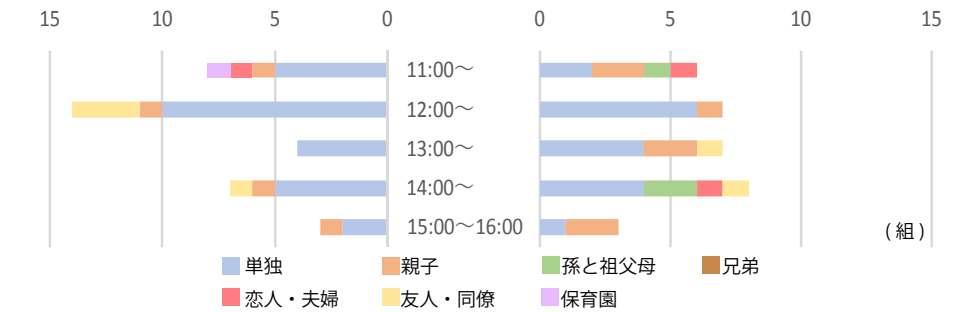
○利用者数



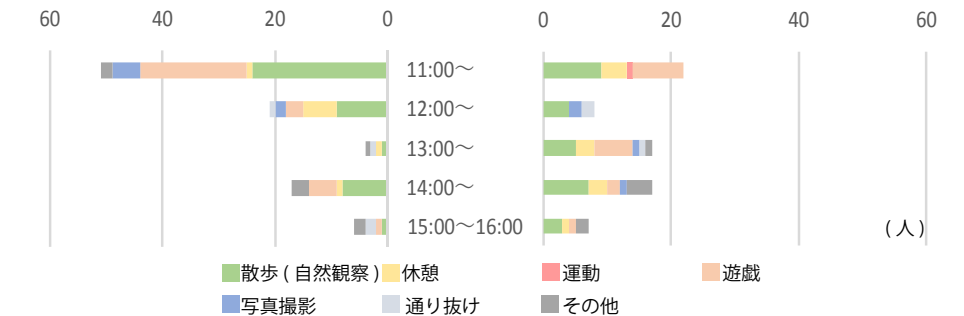
○時間別利用者属性



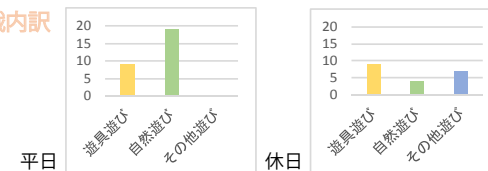
○時間別利用グループ属性



○時間別利用 (※複数記録)



遊戯内訳

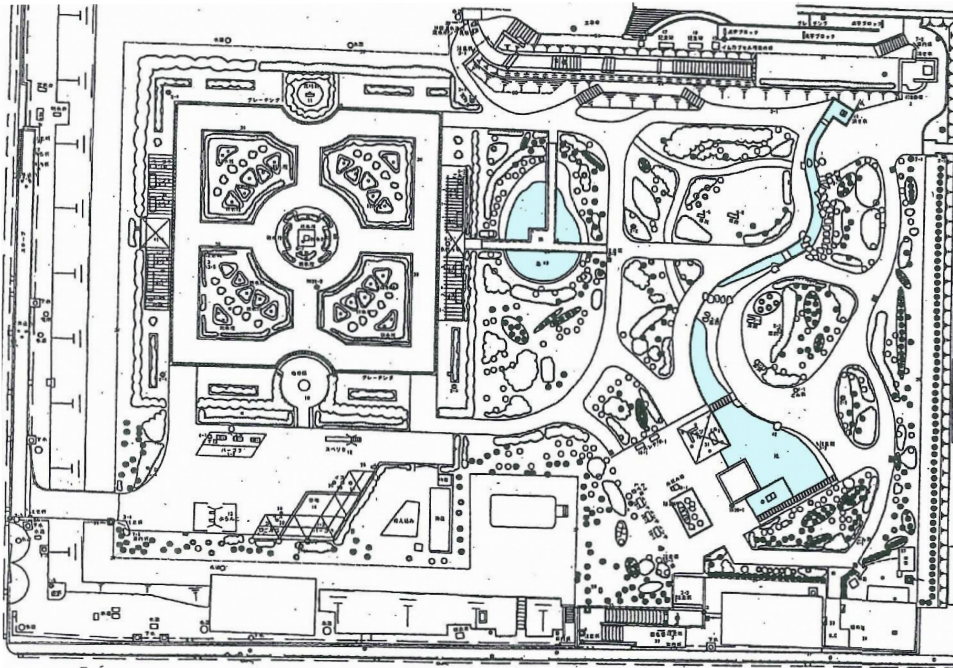


自然観察をしながら散歩や休憩をしている利用者が多く、カメラを持参して撮影している姿もよく見られた。また、落ち葉や枝で遊んだり、斜面を登り「やっほー」と叫んでいる子供もいた。

②本郷給水所公苑

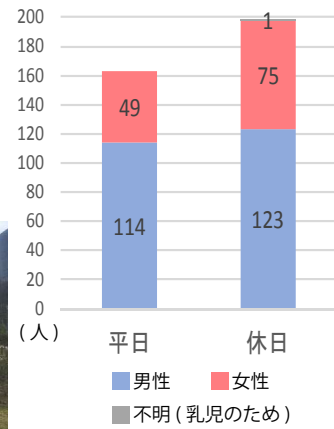
面積 7880m² 設置年月 昭和52年～

本郷給水所上部の人工地盤上に造成された公苑。和風と洋風の2つにゾーン分けがされている。和風庭園は、武蔵野を散策するイメージを味わえる庭園であり、奥の一角には江戸時代の神田上水が復原展示されている。洋風庭園は、色とりどりの花が咲き誇るバラ園であり、フランス式の幾何学的模様でデザインされている。

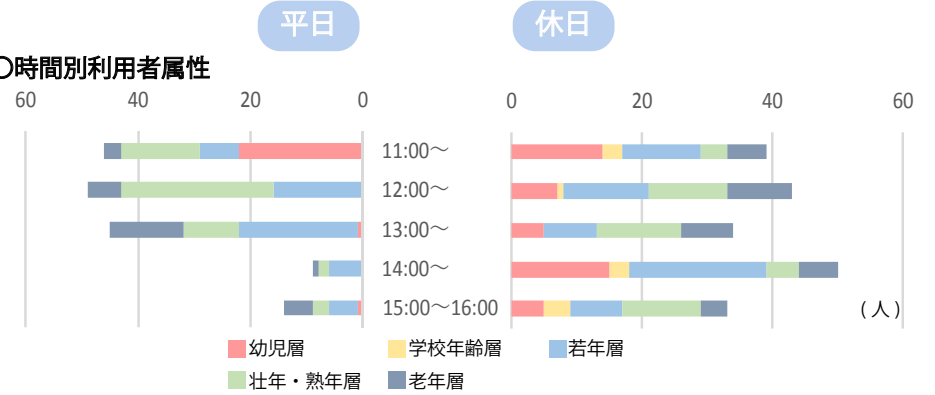


0 5 10 20m

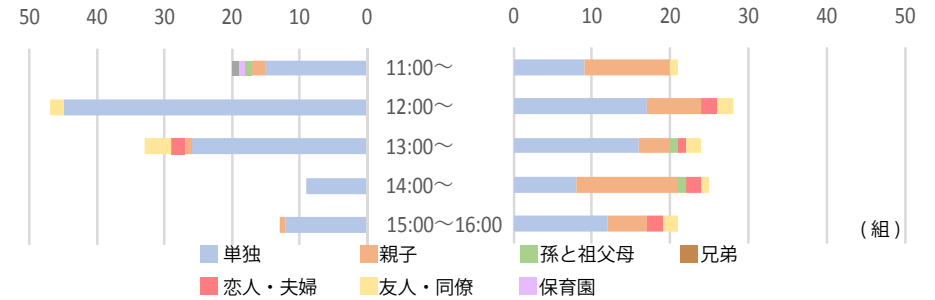
○利用者数



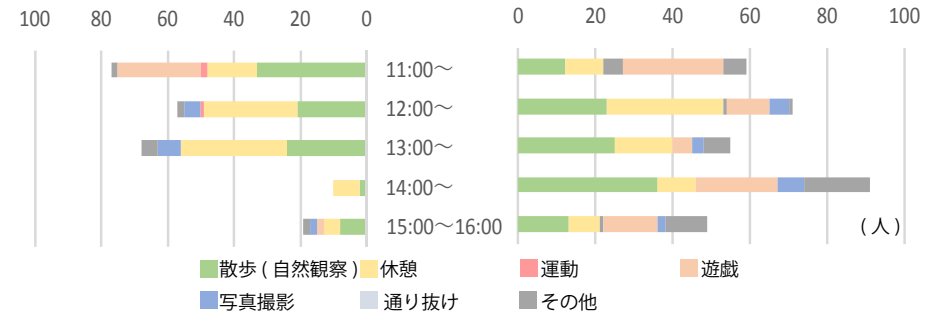
○時間別利用者属性



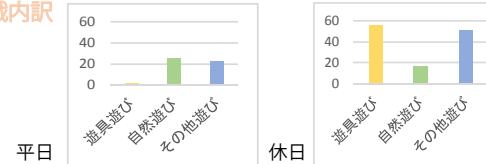
○時間別利用グループ属性



○時間別利用(※複数記録)



遊戯内訳



平日は就労層の利用が多く、ベンチや花壇に座りお昼休憩をしていた。休日は親子の利用が多く、遊具で遊んだり、バラ園を駆け回る姿で賑わっていた。また、自然観察をしている利用者も多かった。

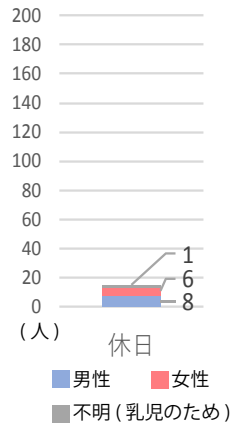
③千石緑地

面積	1243m ²	設置年月	平成6年～
----	--------------------	------	-------

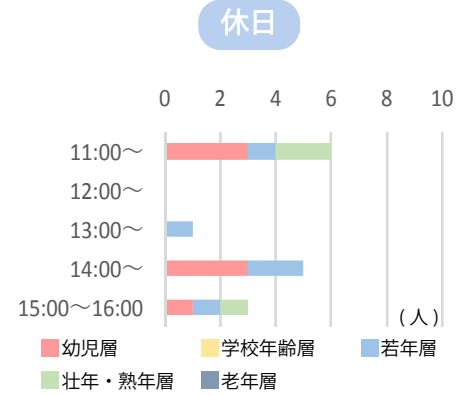
一橋徳川家の樹林地であり、樹林域を末永く残すよう配慮することを条件に区に寄付された。樹林保全のために浮橋状の木製園路が設置されており、その園路を歩くと自然の中を一周でき、区民が自然に親しめるようになっている。また園内には、樹齢100年以上と推定されるムクノキが生育しており、区内有数の巨木となっている。



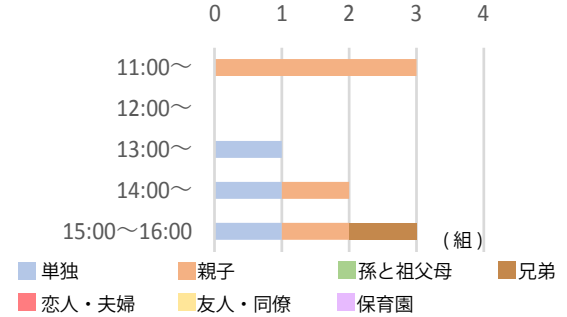
○利用者数



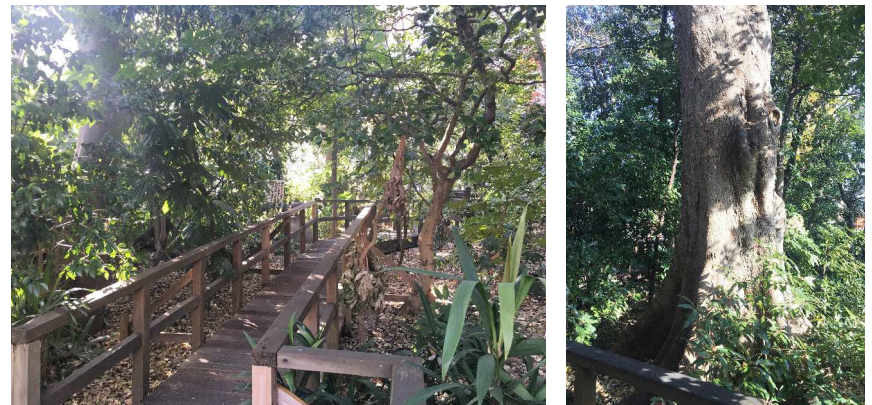
○時間別利用者属性



○時間別利用グループ属性

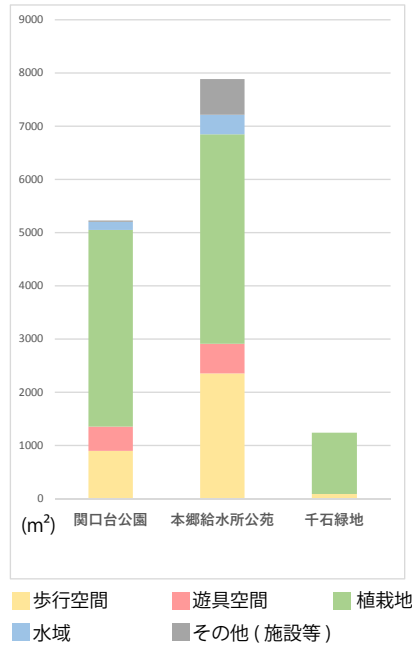


本公園の利用目的は自然観察であり、散歩で立ち寄る親子の姿が見られた。その際、子供は落ち葉を持ちながら木製園路上を楽しそうに何周も駆け回っていた。また、実際に植物を観察しながら、植物毎の特徴を学んでいる親子もいた。



公園比較

○公園別空間構成

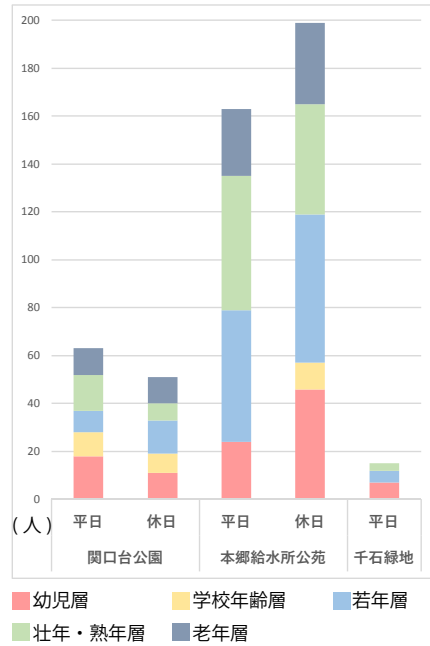


関口台公園の遊具空間



本郷給水所公苑の遊具空間

○公園別利用者属性

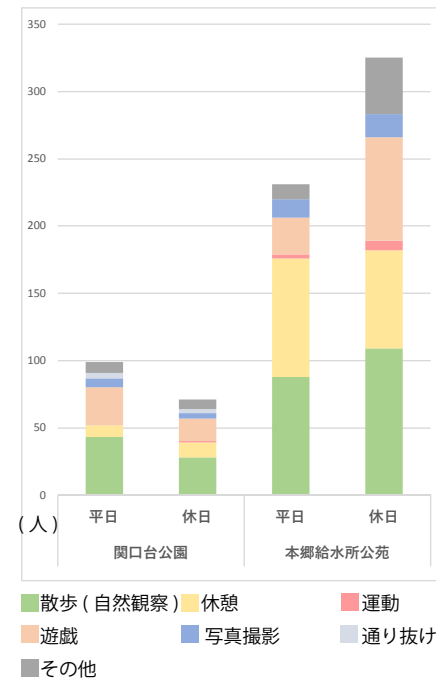


関口台公園
斜面緑地が広がる都市の貴重な自然空間として、自然観察や自然遊び等の利用が多く観察され、豊かな自然を活かした楽しみ方がされていることがわかった。

本郷給水所公苑
平日には就労層、休日には親子の利用が多く、都心の上部空間につくられた緑地が、人々の生活に寄り添い、安らぎや楽しさを与えていることがわかった。

千石緑地
木製園路上的歩行空間と緑地だけの空間であるが、散歩で立ち寄り自然観察や植物を学ぶ場となっており、都市の中の貴重な自然として人々に親しまれていることがわかった。

○公園別利用(※複数記録)



公園毎の特徴によって、利用率や利用内容にも特色が生じるといえ、特に本郷給水所公苑のような変化に富んだ魅力を持つ空間は多くの人々に親しまれ幅広い利用を生むといえる。また、関口台公園や本郷給水所公苑のような遊具空間、また起伏に富んだ自然環境は、子供にとって魅力的な空間である。さらに、ベンチなど人々が休憩できる場所は重宝され、幅広い人に利用されていた。



おわりに

開発が進んだ都市において、公園等に存在する緑はとても貴重であり、人々に安らぎや楽しさを与えていることがわかった。また、本郷給水所公苑のような建物の上部空間や、千石緑地のように自然保護を行いながらも開放されている自然空間は、人々が自然と触れ合うことができる場として親しまれており、都市において緑地を増やし守る手段として有効であると考えられる。しかし人間の利用等により、既存の自然空間、そしてそこに住む生物の生育環境が悪化することも考えられる。そのため、環境特性を踏まえた上で、利用ルールの厳守や行政と地域が連携した管理体制の構築が今後必要であるといえる。人間にとっても生物にとっても良好な公園を維持管理していくことが重要だ。

中央大学 理工学部 人間総合理工学科
石川幹子 正村智美